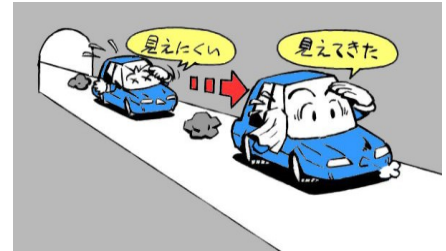


トンネル事故を防ごう！



～他車を巻き込む重大事故に繋がる危険性がある～

■トンネル事故の特徴

- ・トンネルの入口や出口を通過するときは、急に暗くなったり明るくなったりして、しばらく周囲が見えにくくなります。目が周囲の明るさに慣れて見えやすくなるまで時間がかかります。
⇒前車が不安を感じて速度を落とす可能性があります。前車との車間距離が短いままトンネルに入りした場合、速度を落としている前車に気づかずに追突する危険が生じます。
- ・トンネル内は壁で覆われた閉塞的な空間が続くので、カーブの見通しが悪かったり、緩やかな下り坂に気づかなかつたりする可能性があります。
⇒トンネル内で無理な追い越しなどをすれば、他車と衝突する危険が生じます。

■トンネルの安全運転

(1)トンネルに入る前にライトを点け、出てからライトを消そう

- ・トンネル内での視界を確保するため、必ずヘッドライトを点けよう。
(スモールランプではダメ、サングラスをしている時はトンネルに入る前に外そう)
- ・トンネルの入口・出口では、対向車に自車の存在を知らせるため、トンネルに入る前にライトを点け、トンネルを出てからライトを消すように習慣化しよう。
- ・オートライト機能がある車なら、オートライトをオンにしておきましょう！

(2)トンネル内では出来る限り、追い越しなどはしない

- ・トンネル内での追い越しや進路変更、割り込みなどは事故につながりやすいので、トンネルを出るまでは出来る限り同一の車線を走行するようにしよう。



(3)速度をコントロールし、車間距離を十分にとろう

- ・トンネル内が緩やかな下り坂になっていると、気づかぬうちに速度が出て、車間距離が短くなる傾向がある。速度計をこまめに確認して一定の速度を保ち、十分な車間距離を維持しよう。

(4)視線を遠くに向け、車線の中央を走行しよう

- ・トンネルを走行していると、壁に目が向きがちになり、車線の左側に寄ったり、壁が怖くて右側に寄ったりして、事故の恐れがある。視線を遠くに向けて、車線の中央を走行するようにしよう。

(5)長いトンネルに入る前は、眠気を払おう

- ・トンネル内は景色の変化がないので、目からも耳からも刺激が入らないために単調になりやすく、距離が長くなるほど眠気をもよおす危険性がある。
- ・長いトンネルに入る前に眠気や疲れがある場合は、ガムをかむ等の眠気覚まし対策をしよう。

★トンネルの出口では横風に注意しよう！ ⇒⇒「風速電光掲示板」や「横風注意標識」、「吹き流し」に注意、速度を出し過ぎない、ハンドルをしっかり握るなどしよう！

